

「朝鮮の神さま」と光明星伝説

之昌木鐸

レジュメ

諺記「スローガンの木」と「朝鮮の神さま」

1、はじめに

：首領制国家

：社会政治的生命体論と革命的首領觀

首領と党のために自己のすべてを捧げて戦う「眞の忠臣、至極の孝子になろう」

永世と瞬間 父なる首領

：社会主義体制の崩壊

：図讃と諺記 体制神話

諺記は「比較的簡単なる諺言の亀背・木石等に誌されたもの」

高麗の太祖王建の話。

「朴正熙」という名前のなかに運命が隠されている。

2、諺記「スローガンの木」の「発見」

経緯

八七年一一月、『労働新聞』は初めて白頭山密営を中心とする北部国境一帯で「遺跡」発掘事業が進み、「スローガンの木」をはじめとして密営地、生活道具などが「発見」されたと報道。木の皮が剥された木が一万余り「発見」され、「数十年の歳月のために乾燥し、退色したけれども」、二七〇余にスローガンが書かれていたという。

八八年四月、『労働新聞』は、「白頭山密営を中心とした北部国境一帯で組織展開された光復聖戦の日々」と題する連載の最終回で「スローガンの木」の写真の一部を公開した。

四月一五日の金日成の誕生日の直後、四月一九日、「白頭山一帯で新たに見つけられた革命戦跡地」という記録映画が製作されたという記事が『労働新聞』に掲載。

八八年九月、「朝鮮革命の万年財富一大露天文献庫」と題する記事が『労働新聞』に第一面全面を使って掲載され、「スローガンの木」は北部国境一帯だけでなく、慈江道、咸鏡南北道等北部朝鮮の広い一帯で「発見」されている報道された。木の皮の剥された木は八万五千余に達し、そのうち「スローガンの木」は千五百余であるという。

八八年一一月、金正日が「生まれた」密営を抱くようにそびえる峰に「正日峰」という文字が刻まれ、除幕式が盛大に行われた。

八八年一二月、「朝鮮史上に雄く大通運、三大通運万万歳」と題する記事で金日成、妻

金正淑、金正日を三大通運と呼ぶ「スローガンの木」が先鋒郡で「発見」されたと報じた。
金正日を光明星と呼んだ「スローガンの木」の写真が掲載された。

八九年二月、「スローガンの木」の総数が三千五十に達し、そのなかで金日成、金正淑そして金正日を称揚したものが四百六十六あると報道した。

2. 光明星伝説

金正日「嚮導の星」、「白頭山のお星さま」、「白頭星」→「白頭光明星」
『千里馬』九二年三月号「白頭光明星伝説一白頭山長寿峯に光明星が昇った」

光明星の起源のお話

白頭山が仰ぎ見れるリミヨンス村の老獅師、四二年二月、白頭山将帥に会いに白頭山山頂に登る

白頭山天池に白い燕が飛ぶ。天池湖畔に多くの花が咲き始める。

突然、白髪の老人が出現、白い燕は白髪老人の肩にとまり、話しかける。

「白頭山ご老人、お喜びください。今白頭山将帥のように天下を治める非凡な将帥をまたもう一方迎えるようになります」「さようでございます。もう一日たつと、白頭山将帥の血氣をそのまま受け継がれた新しい将帥がご誕生遊ばされるといいます。ですから白頭山で半万年生きてこられたご老人におかせられては早く新将帥を奉じたてまつる聖地をおさがしください」

白髪老人は白頭山にいる数十人の武士を集める。兵士峯、長寿峯、小白山等の白頭山の峯々が武士に変わり、集まる。武士達は自分が奉じると主張、意見はまとまらない。

ひとり論争に入らず、意味深い眼差しで座中をみまわし、言葉なく立っていた長寿峯武士が白い燕に新将帥が生まれる日はいつかと尋ねた。白い燕は二月一六日であると答えた。そうするや、長寿峯武士は「兄弟達、静かになされよ、白頭山の新将帥はすでにわたくしが奉じるように神の啓示がありもうした」「わたくしはこの世に生まれてから天の啓示を受け、白頭山の新将帥を迎える栄光を鶴首苦待し、精力を尽くしてわたくしがいるところに明堂聖地を準備しておきます。わたくしのところにある日の出岩と小白水の澄んだ水は新将帥に太陽の熱気と天池の滑冽な精気を差し上げるであります。奇岩の絶壁は鉄の遺志を差し上げるであります。そしてわたくしが半万年積み上げた天陥の要塞は新将帥の安寧をお守りする永遠な城塞になるでございましょう。さらにわたくしの背が二一六メーターであるので、わたくしが新将帥を奉じるのは千万至当のこととござります」

白髪老人は袋のなかに手をいれ、紅い宝石と青い宝石を取り出すと、長寿峯武士に与えた。そして新将帥をお迎えするようになれば、青い宝石と紅い宝石で將軍星の横にもう一つの将帥星を浮かべ、この世を明るくする光明星にせよと告げた。長寿峯武士は光明星を浮かばせながら、夜にはすべての銀河を、昼には玲瓏たる二重の虹をからせ、白頭山新将帥の誕生をこの世すべてに知らせると語った。白髪老人は武士達にこの話を知らせよと言つて軽石を一つずつ渡す。

老獵師は目を覚まし、軽石を抱いているのに気付く。村に帰り、村人に知らせる。リミヨンス村は明節のようにわきかえる。老獵師は村人を連れて白頭山の見える高台に登る。將軍星が光輝くなかで、「突然千古の林がざわめき、光風が起り、將軍星の横にもう一つの星が浮かび、百光をふりまいた。そうするや、数百数千の小さい星が集まり、その周囲をめぐって銀河となり、照らした」『白頭光明星だ！』

「この日からこの地方の人々は三千里を取り返す祖国光復の日が遠くないと言いながら、しっかりと生きてきたと言う」

「万病草一光明星伝説」『千里馬』九二年五月

「最近抗日武装闘争期の革命的スローガンの木がたくさん発掘されるや、この話に神秘性がさらに加わり、人々は伝説ではなく、本当にあった事実であると語る。そうだ。誰がその言葉を否認することができようか！」

3. 「朝鮮の神さま」

大衆向けの雑誌『千里馬』に掲載された「スローガンの木」の紹介。

九二年一月号で「金日成領袖は朝鮮の神さま、二千万一心で奉じよう」という「スローガンの木」が新陽郡光興里で「発見」された。

同誌四月号でなぜ金日成が「神さま」であるかという論理を展開

「数千年の歳月、無知と蒙昧から抜けでることができなかつたわが人民は日帝に奪われた国を再び回復してくれ、自分たちを亡國奴の運命から救い出してくれる唯一の救援者は＜神さま＞以外にないと考え、天を崇拝し、祈り、また祈つた。しかしそのよう信じ、崇拝した＜神さま＞もわが人民に独立をもたらすことはできなかつた。二千万のはらからは砂漠でオアシスを探すように、塗炭に落ちた国と民族を救い出してくれる領導者を渴望していた。すなわち、このようなとき時代の切迫した要求とわが人民の切実な念願を一身に背負われた敬愛する首領金日成將軍さまにおかせられては白頭山に高く昇られることによ

つて、光を失い、息をひきとつた朝鮮はついに民族の偉大な領袖を迎えるようになった」。したがって、「五千年の悠久の歴史で自らの真正な領導者を迎えた二千万はらからの感激と喜びは三千里江山にあふれ、そのまま懇切な念願となり、所願になり、敬愛する金日成將軍さまを〈朝鮮の神さま〉として高く奉り」、「真に敬愛する首領金日成將軍さまは百戦百勝の遊撃戦術と戦士と人民に対する篤い愛情を一身に帯びられて、強盗日帝の脚下で呻吟したわが二千万はらからを救い出してくださった唯一の〈朝鮮の神さま〉」

おわりに

知識人大会 1992年12月9日朝鮮知識人大会朝鮮少年団祝賀文

「少し前に、遠い国にいったお父さんは私に話してくれました。いつかは紅いネクタイを結んでくれ、歌ってくれた少年。ああ、金髪のその少年が、今日は街で歌を売り、小さな手を出してパンをください。金をください。裾にすがり、自動車を磨きましょう。靴を磨きましょう。数多くの子供たちが街をさまよっているといいいます。

そうです。本当にそうです。社会主義を捨てればわれわれの学校の道は塞がれ、社会主義を捨てれば、われわれの小さい肩に鞆の変わりに靴磨き箱を背負わなければならないことをわれわれはしっかりと知っています。

ああ、真理を命のように貴重にみなす先生たち、革命の筆を力強くとり、人民のためにたてられ、人民のために服務するわれわれ式社会主義をしっかりとお守りください。

父なる大元帥さまと母なる党だけを信じ従う忠誠童に、孝子童になるでしょう」